Pandora

窪川ひより

アリス
カーレン
ヘンゼル
グレーテル
ジャック
ミカエル
メリー

メリー、中央に出てくる。箱を持っている。

メリー　今から私達が語るのは、そう遠くない、過去の物語。南では紅い月が欠け、西では天使が呼吸をし、北では少年達が荒野を駆け、東では花嫁が誓いのキスをしていた頃。世界の片隅では、彼らがそっと、明日を見つめていたのです。

アリスが来る。メリー、箱を差し出す。アリス、蓋に手を伸ばすが、その手を引く。メリー去る。

アリス　・・・この頃、同じ夢ばかり見る。螺旋階段を下る夢。窓も明かりも何も無い、真っ暗闇の中、階段を踏む僕の足音だけが響く。何も見えない。誰もいない。まるで、僕一人だけ、取り残されてしまったかのような。

ヘンゼル、来る。

ヘンゼル　アリス
アリス　ヘンゼル、おはよう
ヘンゼル　大丈夫か？
アリス　何が？
ヘンゼル　なんだか顔色があまり良くないから
アリス　平気だよ。少し眠りが浅かっただけさ
ヘンゼル　そうか
アリス　・・・君の姉さん、元気？
ヘンゼル　姉さん？もちろん。

アリス　この間、隣の国の国王が来てたって、本当？
ヘンゼル　うん、まあ、正確には本人じゃなくて使いだけど
アリス　凄いね
ヘンゼル　当たり前だろ、姉さんには特別な力があるんだから。昨日は政治家の人が来てたぜ。最近広場でよく演説してる人
アリス　へえ。何を聞いていったの？
ヘンゼル　さあ。それは姉さんたちしか知らないことだから
アリス　そっか

カーレンが来る。

アリス　あれ、あの子
ヘンゼル　・・・カーレン
アリス　あんな子、この町にいたっけ
ヘンゼル　アリス、行くぞ
アリス　え、どうして
ヘンゼル　いいから
アリス　ちょっと、ヘンゼル！

ヘンゼル、アリスを引っ張って去る。

カーレン　・・・月のない夜は何処？

カーレン、去る。
ジャックが来る。

ジャック　現在、この国には悪魔が蔓延っている。只の悪魔ではない。慢心という悪魔だ。このまま野放しにしておけば、必ずこの国は滅びてしまう！・・・だがしかし、全国民が協力し、自分たちの手でこの国を守らんとすれば、神は我々に味方するであろう！さあ！

歓声と拍手。グレーテルが来る。

グレーテル　見事なものねえ、政治家先生の演説は
ジャック　君の占星術には負けるよ
グレーテル　そうでしょうね
ジャック　素晴らしいね、毎日ひっきりなしに客が来ているじゃないか
グレーテル　当然よ。私を信じて行動すれば、何もかも上手くいくんだから
ジャック　・・・さて、次はどうすればいい？
グレーテル　その前にひとつ。約束していたでしょう？

ジャック　　ああ、そうだね

ジャック、グレーテルにお金を渡す

グレーテル　ふふ、確かに受け取ったわ
ジャック　　全く、弟さんが見たらなんていうんだろうね？
グレーテル　あら、あの子にばれるわけないじゃない
ジャック　　そうかな？
グレーテル　そうよ。だって私の一番の信者だもの。私のことを無欲で愛にあふれた素晴らしい姉だと思っているに決まってるわ
ジャック　　いい弟さんをお持ちで羨ましいよ
グレーテル　いい？あなたがこの世界で天下を取りたいなら、私の協力はマストなの。私の占星術は絶対
ジャック　　心得てるよ。それで、次は？
グレーテル　・・・そうね。次は
ジャック　　次は？

グレーテル、笑いながら去る。肩をすくめて、ジャックが後を追う。
メリーが来る。

メリー　　その当時私は、彼らに綺麗な夢を見せてあげているつもりでした。キラキラ輝く美しい星空。私たちを照らす、青白い満月。彼らはとても、それを気に入ってくれていました。私には見られないその景色を、彼らはきっと愛してくれていたと思うのです。

メリー、去る。
ミカエルが花束を持って出てくる。アリスが来る

ミカエル　あの
アリス　　はい？
ミカエル　この辺りに、占いの有名な方がいると聞いてきたんですが
アリス　　ああ、グレーテルのこと？だったら、向こうの角を・・・
ミカエル　これ、渡してもらえませんか
アリス　　え、僕が？すぐ近くだから、直接渡した方がいいと思うけど・・・
ミカエル　お願いします
アリス　　・・・分かった
ミカエル　ありがとうございます

ミカエル、走って去る。反対側からヘンゼルが来る。

ヘンゼル　よう
アリス　ちょうどよかった
ヘンゼル　何が？
アリス　これ、君の姉さんにって

アリス、ヘンゼルに花束を渡す。

ヘンゼル　誰から？
アリス　知らない
ヘンゼル　は？
アリス　知らない人が、渡しておいてくれって
ヘンゼル　こういうのって、本人から渡さないと意味ないだろう
アリス　僕もそういったんだけど、どこかへ行ってしまったから
ヘンゼル　まあ、とりあえず預かる。姉さんがこれで喜ぶとは思えないけど
アリス　こんなに綺麗なのに？
ヘンゼル　綺麗とかじゃないんだよ。姉さんは、作り物が嫌いなんだ。それじゃ

ヘンゼルが去る。

アリス　作り物、か・・・

カーレンが来る。

アリス　・・・あ
カーレン　月のない夜はどこ？
アリス　え？
カーレン　月のない夜はどこ？
アリス　どういうこと？
カーレン　あなたも、探しているんでしょう？
アリス　僕も？

カーレン、去る。

アリス　彼女の言っている言葉の意味は、僕には分からなかった。でもその日僕の夢には、大きな窓が増えた。でも、窓の外は真っ暗で、そこにあるはずの月は、どこにも見えなかった。

アリス、去る。ヘンゼルが来る、後からミカエルが来る。少し会話をして、二人とも去る。
グレーテルが来る。座って、お金を数えている。

ヘンゼル　　姉さん

グレーテル、お金を慌てて隠す。ヘンゼルが入ってくる。

グレーテル　なあに、ヘンゼル
ヘンゼル　　何してたんですか？
グレーテル　何でもないのよ
ヘンゼル　　・・・そうですか
グレーテル　で、どうしたの？
ヘンゼル　　姉さん宛に、これが

ヘンゼル、花束を差し出す。グレーテルが受け取る。

グレーテル　あら、素敵。私に？
ヘンゼル　　はい
グレーテル　誰からかしら？
ヘンゼル　　それが、差出人の名前は無くて
グレーテル　・・・そう
ヘンゼル　　活けておきましょうか？
グレーテル　ありがとう、でも、たまには自分で飾ってみるわ
ヘンゼル　　分かりました
ジャック　　失礼するよ

ジャック入ってくる。

グレーテル　あら、もう約束の時間？
ジャック　　おや、弟くん。来ていたんだね
ヘンゼル　　・・・失礼します

ヘンゼル、去る。

ジャック　　僕はあまり好かれていないのかな？
グレーテル　仕方ないわよ。胡散臭いもの
ジャック　　心外だな。さて、こちらが今日の“差し入れ”だ
グレーテル　あら、いつもお心遣い、ありがとう
ジャック　　花束か。綺麗だね
グレーテル　そうかしら？私、偽物って嫌いなのよね

ジャック、グレーテル、去る。
カーレン、椅子に座り、空を眺める。

カーレン　真っ暗な空。ところどころにちりばめられた、星たちの輝き。一つ一つ大きさも明るさも違うけれど、すべてが愛おしい。この国に朝はない。太陽も、青い空も、全て童話の中だけの話。でもいつかこの目で見ることを夢見て、ここで一人、待っている。

アリス、来る。

アリス　・・・あ
カーレン　今晩は
アリス　あ、どうも・・・
カーレン　昨日は、ごめんなさい
アリス　え？
カーレン　驚かせてしまって
アリス　あ、いや、大丈夫
カーレン　私、カーレン。あなたの名前は？
アリス
カーレン　アリス。女の子みたいな名前ね
アリス　僕に言わないでよ
カーレン　ごめんなさい
アリス　君は、最近ここに越してきたの？
カーレン　え？
アリス　いや、この町で見かけたことがなかったから
カーレン　アリス。自分の見えているものが世界のすべてじゃないのよ
アリス　どういう意味？
カーレン　ねえアリス。アリスはいつからここに住んでいるの？
アリス　いつからって、生まれた時からだよ
カーレン　そう。私、この町が気に入ったわ
アリス　そりゃ良かった
カーレン　ねえ、アリス。また明日、ここで会えるかしら
アリス　え?うん、いいけど・・・
カーレン　じゃあ、また明日ね

カーレン去る。アリス、呆気にとられながらもそれを見送る。ヘンゼルが来る。

ヘンゼル　アリス
アリス　ヘンゼル
ヘンゼル　今のは

アリス　ああ、この間見かけた子だよ。あの時はヘンゼルが僕を引っ張ってっちゃったけど
ヘンゼル　あまり仲良くするな
アリス　え、どうして？
ヘンゼル　知らない方がいいこともある、ってことだよ

ヘンゼル去る。それを追いかけてアリスも去る。ミカエルが後ろから来て、去る。
メリー、来る。

メリー　まず、この国の歴史からお伝えしましょう。三百年前、世界は一つの国でした。たった一人の王が、この世界を治めていたのです。彼は素晴らしい人でした。権力を振りかざすことも、高い税を要求することもありませんでした。

メリー、去る。
グレーテル、ジャックが来る。

グレーテル　ねえ、ジャック
ジャック　なんだい？
グレーテル　あなた、水難の相が出てるわ。湖に特に注意よ
ジャック　分かった
グレーテル　演説は明後日、広場で行いなさい
ジャック　そうするよ
グレーテル　そうしてちょうだい
ジャック　そうだ。グレーテル、あの噂、知っているかい？
グレーテル　噂？
ジャック　地下牢に閉じ込められていた亡霊の話さ。百年前に、城の地下牢で死んだ魔女の亡霊が、深夜になると町中を徘徊しているらしいよ
グレーテル　いやだ、あなたそんなの信じてるの
ジャック　信じてはいないよ。だが、噂には、国民を動かす大きな力がある。こちらも気にしておいて損はないと思ってね
グレーテル　そう。私はきっと明日には忘れていると思うわ

グレーテル、ジャックが去る。
カーレンが来る。

カーレン　神様がこの世界にいるというならば、今すぐ私のもとにそのお姿をお現し下さい。何も、何も覚えていないのです。父さまの優しさも、母さまの温もりも、私には何も残されていないのです。どうか、どうか・・・

アリス、来る

アリス　カーレン
カーレン　今晩は
アリス　あ、今晩は
カーレン　どうしたの？
アリス　え、君がまた明日、って言ったから
カーレン　・・・アリスは、いい人ね。誰だか分からない人との約束を守るなんて
アリス　え？君はカーレンでしょ？
カーレン　え、うん、そうだけど
アリス　じゃあ、僕には誰だか分からない人じゃないんだけど
カーレン　・・・そんなんじゃ、そのうち詐欺に合うわよ
アリス　え、なんで
カーレン　この国は、とっても月が綺麗ね
アリス　そうだね
カーレン　ねえアリス、私が最初にあなたに言った言葉、覚えてる？
アリス　・・・月のない、夜のこと？
カーレン　うん。私ね、月のない夜を探しているの
アリス　ごめん、その意味がよく分からないんだけど
カーレン　だから、月のない夜よ
アリス　月がなくなることなんて、あり得ないことなんだよ？
カーレン　どうして？
アリス　どうしてって、それが世界の法則なんだよ
カーレン　アリス。自分の見えているものが世界のすべてじゃないのよ
アリス　それ、昨日も言ってたよね
カーレン　アリスは神様？
アリス　僕は神様じゃないよ
カーレン　じゃあ、そういうこと。きっとまだ、本当の世界がどこかにあるの
アリス　本当の世界？

カーレン、微笑んで去る。
ジャック、来る。

ジャック　今晩は
アリス　あ、こ、今晩は
ジャック　こんな夜遅くに何をしているんだい？
アリス　あ、友達と、話していて
ジャック　そうかそうか。友達はいいものだ。大切にしたまえ
アリス　あ、はい
ジャック　でも気をつけてくれ、青年。最近この辺りでは亡霊が出るそうだよ
アリス　亡霊？

ジャック　百年前に死んだ、魔女の亡霊だそうだよ
アリス　魔女ですか
ジャック　まあ、何かと理由をつけて女性を殺す風習があったってことさ
アリス　はあ
ジャック　それじゃあ、気を付けて帰りたまえ。僕もこれで失礼するよ
アリス　あ、はい、失礼します

ジャックが去る。

アリス　・・・誰だろう、あの人

アリスが去る。
ミカエルが来る。ヘンゼルが来る。

ヘンゼル　どうだ？
ミカエル　特に動きはなし
ヘンゼル　・・・そうか
ミカエル　でも、お友達さんにはたった今接触完了
ヘンゼル　アリスに？
ミカエル　お前、本当にばれてないんだろうな
ヘンゼル　まさか
ミカエル　ならいいんだ
ヘンゼル　あいつ、何を考えているんだろう
ミカエル　さあな。でも、さっさと壊さないと何もかも、なかったことになっちまう
ヘンゼル　・・・分かってるよ

ミカエル、ヘンゼル去る。
ジャック、来る。

ジャック　今から三百年ほど前の話です。この世界は、一人の王によって治められていました。彼の力はとても大きいものでしたが、彼は絶対にその権力を振りかざすことなどしなかった。正義と愛にあふれた、素晴らしい方だったそうです。しかし次々と家臣が反逆を起こし、世界はバラバラになってしまった。もう一度皆で立ち上がって、この世界を一つに、もう一度、あの愛にあふれた豊かな国にしようではありませんか！

拍手喝采。
グレーテル来る。

ジャック　やあ、グレーテル。君のおかげで大成功だよ

グレーテル　良かったわね
ジャック　近いうちに、この世界はまた一つの国になれる。僕はそう思うよ
グレーテル　いいんじゃない。人類が手を取り合うことは素敵なことよね
ジャック　ああ。国王もきっと、お喜びになるだろう
グレーテル　まあ、白々しい
ジャック　白々しい？
グレーテル　何でもないわよ
ジャック　・・・必ず、僕の手で世界を一つにするんだ。そうすれば、この国は僕のもの。絶対に僕が支配してやる。あの女なんかにもう、踊らされてたまるか・・・

ジャック去る。

グレーテル　あの人もよく懲りないわね。尊敬しちゃう
ヘンゼル　姉さん

ヘンゼル入ってくる。

グレーテル　あら、どうしたの？
ヘンゼル　姉さんに、どうしても会いたいという人が
グレーテル　今日はもう営業終了よ
ヘンゼル　そう伝えたのですが、どうしてもと頼み込まれてしまって
グレーテル　・・・仕方ないわね、いいわよ
ヘンゼル　どうぞ

ミカエル、入ってくる。

ミカエル　初めまして、あなたがグレーテル様でいらっしゃいますか？
グレーテル　ええ。そうよ
ミカエル　噂通り、とてもお綺麗ですね
グレーテル　あら、ありがとう
ミカエル　申し遅れました。私はミカエル。あなたに、わが主人からの言伝を
グレーテル　何かしら
ミカエル　どうぞ、こちらを
グレーテル　これは？
ミカエル　わが国でとれたダイヤモンドです。お近づきのしるしに。・・・わが主人は、海の向こうの小さな国の主をしております。しかし数年前に病を患い、もう長くはないのです。主には兄弟も子供もおりません。そこで、あなたのお噂を聞きまして。あなたならきっと助言をくださると思って、伺った次第でございます
グレーテル　・・・いいわよ、すぐに占ってあげる

ヘンゼル　姉さん
グレーテル　いいのよ。困っている人を助けるのが私の仕事なんだもの

グレーテル、去る。

ミカエル　よし、上手くいったな
ヘンゼル　おい、お前
ミカエル　いいじゃないか。意外と騙されやすいんだな
ヘンゼル　あんな宝石、どこから持ってきた
ミカエル　国家機密だよ
ヘンゼル　・・・あのなあ
ミカエル　これが一番手っ取り早かったんだよ

グレーテル、来る。

グレーテル　それじゃあ、こちらへどうぞ
ミカエル　ありがとうございます

グレーテル、ミカエル、去る。ヘンゼル、ため息をついて去る。
アリス、来る。

アリス　・・・光。ゆらゆら揺れている、光。蝋燭。頭がぼうっとしている。また階段を下りている。でも、明かりがある。初めて足元が見えた。古い、石の階段だ。冷たい、乾いた階段だ。足をとめて、耳を澄ましてみた。・・・何も聞こえない。静寂。しばらくたって、僕はまた、歩き出す。

カーレン、来る

カーレン　アリス
アリス　・・・やあ
カーレン　ねえ、行きたいところがあるの
アリス　行きたいところ？
カーレン　森の奥の教会よ
アリス　森の奥？そんなところに教会なんてあったっけ？
カーレン　もう何年も使われていない教会があるんですって。ね、行ってみたいと思わない？
アリス　いや、僕は別に
カーレン　ほら、行きましょう

カーレン、走って去る。アリスも後を追う。

メリー来る。

メリー　しかし、その国王が崩御されると、世界は酷く混乱してしまいました。跡を継いだのは、四歳だった王子。子どもに国が治められるはずもなく、やがて世界は、争うようになりました。

メリー去る。

アリス、カーレン来る。

アリス　・・・わあ
カーレン　思ったより小さいのね
アリス　知らなかった、こんなところに
カーレン　何年も使われていないわりに綺麗ね？
アリス　外は雑草だらけだったけどね
カーレン　ここ、どのくらい前からあると思う？
アリス　え、うーん・・・何年も使われていないって言ってたし、三十年とか？
カーレン　二百年前
アリス　え、そんなに？
カーレン　ここに来る前調べてきたの。・・・ここからは、宮殿が見えるのね
アリス　あ、本当だ
カーレン　ねえ。アリスは、満足してる？
アリス　何に？
カーレン　ここで生きることに
アリス　・・・僕にはここしかないから
カーレン　・・・そう
アリス　・・・
カーレン　私はね、見つけたいの
アリス　月のない夜？
カーレン　そう
アリス　でも、きっとどこを探しても見つからないよ
カーレン　そんなことないわ。きっといつか、夢が叶う日が来る
アリス　あのさ

扉の開く音。ヘンゼルとミカエルが入ってくる。

ヘンゼル　・・・アリス
アリス　ヘンゼル！どうしてここに？
ヘンゼル　お前こそ。・・・そいつは
カーレン　・・・

ヘンゼル　アリス、早く帰れ
アリス　え、どうして
ヘンゼル　いいから
アリス　・・・カーレン、行こう
ヘンゼル　駄目だ。そいつには話がある
アリス　話？
カーレン　・・・アリス、先に帰っていて
アリス　カーレン
カーレン　またあとでね、アリス

アリス、出ていく。

ヘンゼル　どういうつもりだ
カーレン　どういうつもりって？
ヘンゼル　なぜここにいる
カーレン　・・・
ミカエル　ここのこと、どうやって知ったのかって聞いてるんだよ
カーレン　・・・あなたたちは嫌じゃないの？
ヘンゼル　嫌なんて感情、持ったことがない
カーレン　それが生まれた理由だから？
ヘンゼル　そうだ
カーレン　私はそうは思わない
ヘンゼル　お前がどう思おうが勝手だ。でもあいつには干渉するな
カーレン　嫌
ミカエル　ヘンゼル
ヘンゼル　なんだ
ミカエル　誰だ、そいつ
ヘンゼル　こいつは

カーレン、隙を見て去る。

ミカエル　あ、逃げた
ヘンゼル　お前のせいだぞ
ミカエル　で、誰なんだ
ヘンゼル　・・・亡霊だよ。百年前のな

ヘンゼル、地下に向かう。

ミカエル　・・・亡霊？どう見ても生きてるだろ。おい！

ミカエル、後を追う。
アリス来る。

アリス　・・・
ジャック　今晩は
アリス　・・・あ、この間の
ジャック　どうしたんだい？
アリス　僕にもよく、わかりません
ジャック　ほう？
アリス　自分がなんなのか、分からなくなりました
ジャック　思春期にはよくあることだよ
アリス　そうじゃなくて
ジャック　気にするな。もうすぐ、世界は一つに戻るのだから
アリス　え？
ジャック　世界が一つになれば、きっと君の存在意義もわかるだろう
アリス　あの・・・？
ジャック　・・・おしゃべりが過ぎたね。それじゃあ

ジャック去る。
後ろからヘンゼル、来る。

ヘンゼル　忘れろ
アリス　え？
ヘンゼル　月のない夜なんて、あるはずがない
アリス　カーレンは
ヘンゼル　逃げられた
アリス　そう
ヘンゼル　・・・このまま、生きていられるだけでよかったんだ
アリス　ヘンゼル？
ヘンゼル　アリス。あまり、深入りするなよ
アリス　・・・うん

ヘンゼル、去る。

アリス　・・・世界が一つに、なる。それが何を意味しているのか、僕には分からなかった。でも、それはあまり喜ばしいことじゃない。なんだか、そんな気がした。

アリス、去る。

グレーテル、来る。

グレーテル　・・・思い描く未来は、同じなのに。どうしてこんなに、人は互いを憎みあうのかしら

ヘンゼル、ミカエル来る。

ヘンゼル　姉さん、ミカエルが
グレーテル　あら、その後は順調？
ミカエル　はい。あなたのおかげです。主も大変感謝しております
グレーテル　それは良かったわ
ミカエル　しかし、良くない話を聞きつけましてね
グレーテル　良くない話？
ミカエル　なんでも、世界を一つに纏めようとしているものがいるとか
グレーテル　あら、それは初耳だわ
ミカエル　そんなことをしては、世界の崩壊に繋がりかねません
グレーテル　・・・そうかもねえ
ミカエル　また、お力添えをお願いできますか？
グレーテル　・・・ええ。いいわよ
ミカエル　ありがとうございます。今日は、そのご意思だけ伺いに来ました。では、失礼します

ミカエル、去る。

ヘンゼル　姉さん？
グレーテル　ヘンゼル、あなたは何があっても、私の味方よね？
ヘンゼル　・・・もちろん
グレーテル　それだけ聞ければいいわ。おやすみなさい
ヘンゼル　・・・失礼します

ヘンゼル、去る。

グレーテル　楽しくなりそうね

グレーテル、去る。

メリー、箱を持って来る。

メリー　激しい争いの末、世界はやがて、数えきれないほどの小さな国に分かれていってしまいました。もう二度と、一つには戻れない。私はそう思っていました。今でもずっと、そう思っています。

カーレン、来る。

メリー　　あなたは、この箱を開けるのかしら？
カーレン　　・・・私は

カーレン、箱に手を伸ばす。メリー、去る。

カーレン　　・・・開かせてくれないのは、あなたでしょう？

ミカエル、来る

ミカエル　　今晩は
カーレン　　・・・
ミカエル　　そう警戒しないでください。取って食ったりしませんよ
カーレン　　・・・
ミカエル　　あなたにお願いがあってきました
カーレン　　お願い？
ミカエル　　僕たちに、協力してくれませんか？
カーレン　　・・・あなたたちは、あの教会で何をしていたの？
ミカエル　　準備ですよ。この国を守るためのね
カーレン　　兵隊さんなの？
ミカエル　　いいえ。ただの善良な市民です
カーレン　　ただの市民に、国なんて守れないと思うけど
ミカエル　　あなたは、どこから来たんですか
カーレン　　・・・
ミカエル　　本来、ここにいるべき人間ではないですよね？
カーレン　　何を言っているのかよく・・・
ミカエル　　ごまかさないでください。逃げ出してきたんでしょう？
カーレン　　・・・
ミカエル　　まあ、言いたくないなら良いです。でも今のあなたには、居場所がない。僕たちに協力してくれたら、あなたの居場所を用意してあげます。悪くない話でしょう？
カーレン　　・・・何を、したらいいの？
ミカエル　　簡単ですよ。見張りのお仕事です

ミカエル、カーレン、去る。

アリス、来る

アリス　　終わりがない。永遠に続く螺旋階段を、僕は今日も降り続けている。いったいいつ、この夢は終わるのか。窓から見える景色も、変わらない。時折窓から地上を覗いてみたけ

れど、暗い闇が広がっているだけだった。

メリー、来る

メリー　終わりたい？
アリス　え？
メリー　もうすぐ、終わるわ
アリス　もうすぐ？
メリー　この国も、終わる

メリー、去る。

アリス　・・・あなたは

アリス、去る。

グレーテル、ジャックが来る。

ジャック　グレーテル
グレーテル　あら、今晩は
ジャック　弟さんは、今どこにいる
グレーテル　買い付けに行っているわよ
ジャック　・・・そうか
グレーテル　何か用でもあった？
ジャック　待たせてもらってもいいかな
グレーテル　どうぞお好きに
ジャック　・・・
グレーテル　何よ
ジャック　急いだほうがいいかもしれない
グレーテル　何を
ジャック　世界の統一をさ
グレーテル　ああ、その話ね
ジャック　既に、準備は整っている
グレーテル　それは素敵なことね
ジャック　いつがいい
グレーテル　そうねえ、明日かしら
ジャック　明日？
グレーテル　早い方がいいんでしょう？
ジャック　分かった、明日だね
グレーテル　そう、明日

ジャック　僕はこの世界を、絶対に素晴らしいものにする。誰ももう、縛られることなんてないんだ。僕はなんてついているんだろう。君がいればもう、僕には怖いものなんてない

ヘンゼル、来る

ジャック　やあ、弟くん。今晩は
ヘンゼル　・・・今晩は
ジャック　・・・
ヘンゼル　・・・
ジャック　君は、僕の考えについてどう思うかい？
ヘンゼル　・・・政治の話は、よく分かりませんので
ジャック　近いうち、僕は国の主になる。君も楽しみにしていてくれたまえ
ヘンゼル　・・・はい
ジャック　それでは

ジャック、去る

グレーテル　・・・明日、ねえ
ヘンゼル　明日？
グレーテル　ふふ、なんでもないわ

グレーテル、去る

ヘンゼル　・・・明日

ヘンゼル、出てきた方に去る。
アリス、カーレン来る。

カーレン　アリス
アリス　何？
カーレン　ありがとう
アリス　何が？
カーレン　私と仲良くしてくれて
アリス　どうしたの、急に
カーレン　ここに来て、私、とっても楽しかった。あなたと色々な話ができて
アリス　いつも、大事なことははぐらかされてたけどね
カーレン　そうかもね
アリス　・・・カーレン？
カーレン　アリス、あのね

ミカエル、来る

ミカエル　カーレンさん
アリス　・・・あなたは
ミカエル　おや、また会いましたね
カーレン　どうしたの
ミカエル　状況が変わりました。奴は明日、国王を殺すつもりです
アリス　国王を、殺す？
ミカエル　こんなに早く実行に移すとは思っていませんでした。グレーテルはもっと慎重に占いをするのかと思っていたから
カーレン　・・・それで？
ミカエル　もちろん、その前に奴を殺します
カーレン　・・・
アリス　ちょっと待って、何が起きているんだ？
ミカエル　・・・謀反を起こそうとしている奴がいるんですよ
アリス　謀反？
ミカエル　そいつは、この世界をもう一度ひとつにしようとしています
アリス　そんなこと可能なのか？
ミカエル　分かりません。でも、そんなことをしたら、この世界はおかしくなってしまう
カーレン　・・・きっと私たちも、消えてしまう

ヘンゼル、来る

ヘンゼル　ミカエル
ミカエル　おっと、ばれちゃった
ヘンゼル　既に秩序を乱している奴が何を言っているんだ
カーレン　私は
ヘンゼル　・・・帰れ、元の世界に。ミカエル、行くぞ

ヘンゼル、去る

カーレン　・・・アリス、さっき言いかけたことだけど
アリス　・・・何？
カーレン　私、誰も知らないような遠いところから来たの
アリス　・・・そんな気はしてたよ
カーレン　行こう、アリス
アリス　行くって、どこへ
カーレン　誰も知らないところへ。ここは、もうすぐなくなってしまうかもしれない。その前に、

安全なところへ
アリス　・・・ごめん、それはできない
カーレン　アリス？
アリス　前に言ってくれたよね。ここが気に入ったって
カーレン　うん
アリス　僕も、ここが好き。だから離れたくない
カーレン　でも
アリス　ヘンゼルたちがきっと、止めてくれるよ
カーレン　・・・無理よ
アリス　どうして
カーレン　逃げよう、アリス
アリス　・・・ごめん

アリス、去る。カーレンが追いかける。
ジャック、来る。

ジャック　大丈夫だ、僕ならきっと・・・もうすぐ世界は僕のものだ。あるべきところに力が返るだけだ・・・

ジャック、去る。
ヘンゼル、ミカエル来る。

ヘンゼル　あいつは
ミカエル　もう中に入った
ヘンゼル　急がないと、手遅れになる
ミカエル　・・・なあ
ヘンゼル　なんだ
ミカエル　良かったのか
ヘンゼル　何が
ミカエル　・・・いや、なんでもない

ヘンゼル、ミカエル去る。
ジャック来る。

中央に後ろ向きの玉座。国王のもの。ジャックが入ってくる。ゆっくりと玉座に近づく。

ジャック　・・・

ジャック、剣を玉座に突き立てる。ゆっくりと剣を抜く。異変に気付き、前に回る。

誰もいない。背後からヘンゼルが来る。

ヘンゼル　ここには誰もいませんよ
ジャック　・・・なぜここにお前がいる
ヘンゼル　今すぐ剣を捨てろ
ジャック　国王はどこだ
ヘンゼル　知ってどうする
ジャック　そうか、お前の姉さんは僕を裏切ったんだな
ヘンゼル　だったらどうする？
ジャック　どうもしないよ。ただ消えてもらうだけだ
ヘンゼル　お前は、何がしたいんだ
ジャック　何がしたいって？力だよ。力をあるべきところに戻したいだけだ
ヘンゼル　あるべきところ？
ジャック　知らなくていい。どうせすぐに消えるんだ

ミカエル来る。ジャックに剣を向ける。

ミカエル　国王はもう、ここにはいない
ジャック　なんだって？
ミカエル　お前には殺せない
ジャック　僕では出来ないと？
ヘンゼル　そうじゃない。存在しないものは、殺せない

ミカエル、ジャックを殴る。ジャック、倒れる。
アリス、カーレン来る。

ヘンゼル　・・・失敗したのか
カーレン　・・・ごめんなさい
アリス　この人
ミカエル　大丈夫です、死んでません

グレーテル、来る

グレーテル　あら、負けちゃったのね
ヘンゼル　・・・姉さん
グレーテル　ヘンゼルはいつだって、私の味方じゃなかったの？
ミカエル　おい、お前は知ってたのか？
グレーテル　何を？
ミカエル　・・・最初から、ここには誰もいなかったことを

グレーテル　私、素直な人って好きよ
ミカエル　答えろ
グレーテル　・・・悪い夢だったのよ、きっと

グレーテル、屋敷に火を放つ。
メリー、出てくる。箱を開ける。

メリー　おやすみなさい

暗転。炎の音が響き渡る。
明転、アリス来る。

アリス　・・・夢を見ていた。あの、螺旋階段を下る夢。景色は変わらない。月も見えない。ふと前を見ると、壁掛けの蝋燭がいままでにないものを照らしているのに気が付いた。・・・扉だ。ゆっくりと歩を進める。僕は、最後の一段を降り切った。重くてもう何年も開けていないような、鉄の扉。ノブに手をかける。ゆっくりと開く扉。その先には。
カーレン　・・・アリス、アリス！

明転。カーレン、アリス、ヘンゼル、ミカエルがいる。順に目を覚ます。
箱が落ちている。

アリス　・・・あれ
カーレン　・・・おはよう、アリス
アリス　ここは・・・
ヘンゼル　・・・あれ、姉さんは・・・

グレーテルが身に着けていたアクセサリーが落ちている。

ヘンゼル　・・・姉さん
ミカエル　・・・おい、みんな

ミカエル、空を見上げる。つられて三人も見上げる。

カーレン　・・・綺麗
アリス　・・・空って、こんなに青かったんだね

そのままゆっくり照明フェードアウト。

～fin～